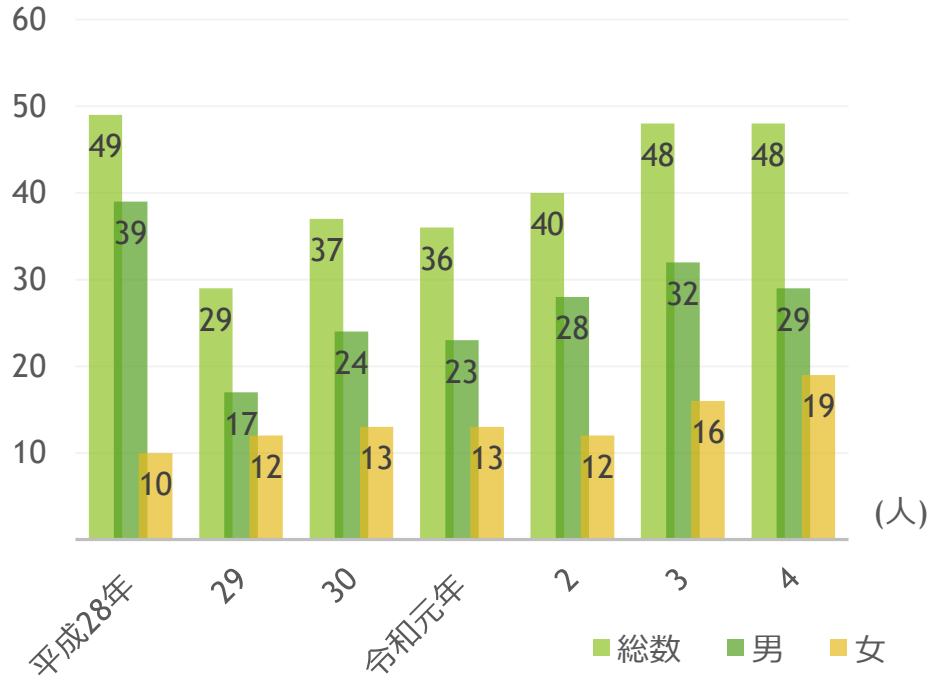


令和4年中における府中市の自殺の状況①

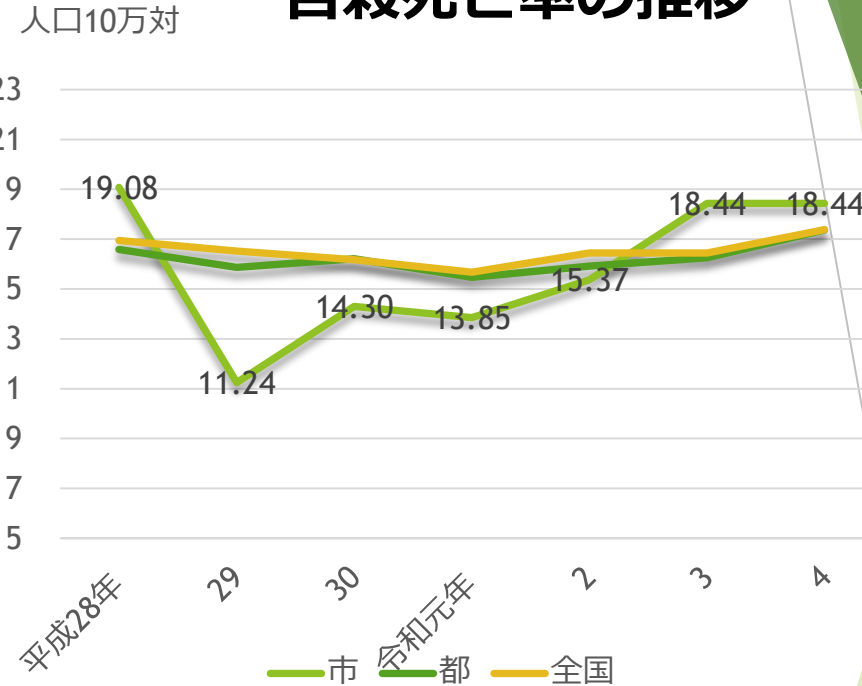
資料4-1

自殺者数の推移



- ・令和4年の自殺者数は、前年同様（48人）であった。
- ・令和4年の全体の自殺者数における女性の割合は39.6%、前年より6%上昇し、過去7年間に於いて最も高い割合となっている。
- ・平成30年から自殺者数が増加傾向にある。

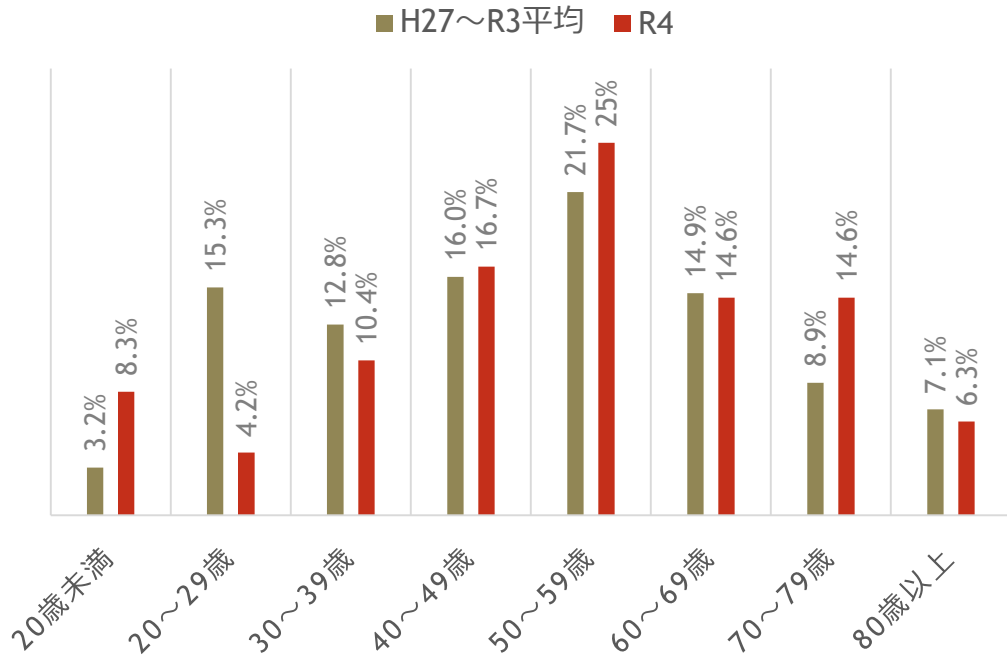
自殺死亡率の推移



- ・令和4年の自殺死亡率は、前年同様（18.44）であり、全国（17.37）東京都（17.38）と比較し、高い割合となっている。
- ・平成29年から令和2年までは、全国および東京都の自殺死亡率よりも低い割合で推移していた。

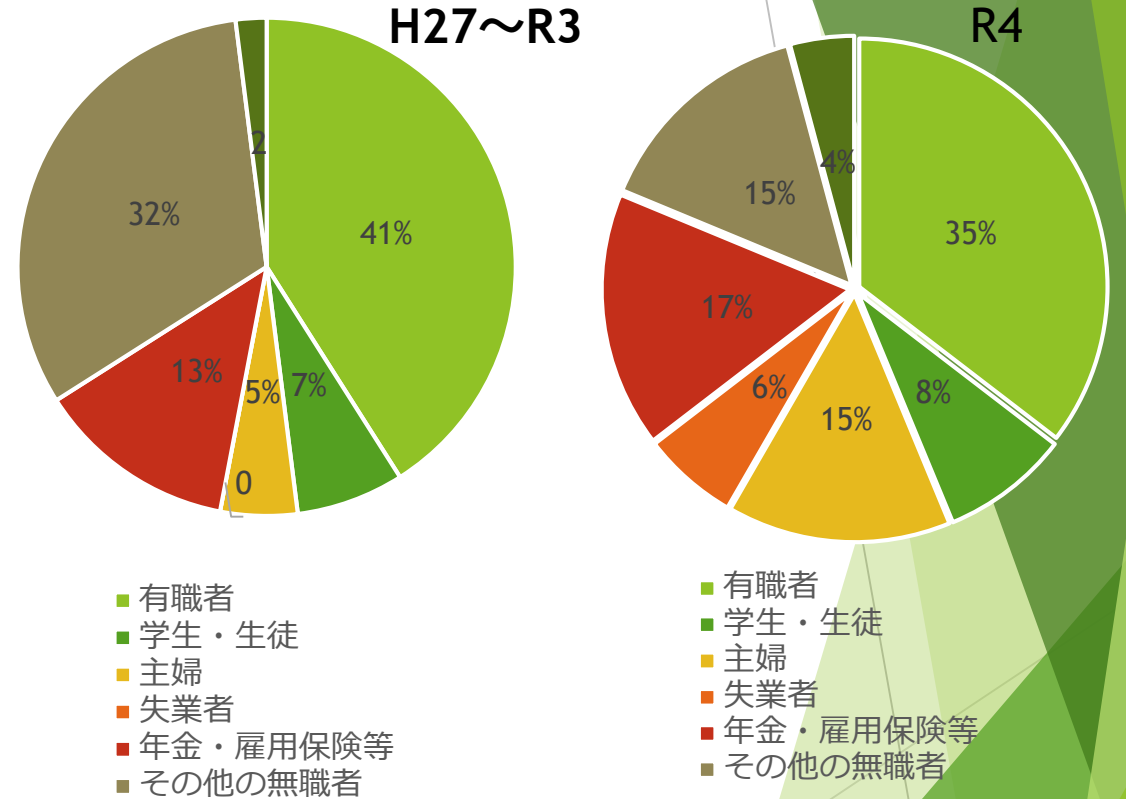
令和4年中における府中市の自殺の状況②

年齢別自殺死亡率の比較



- ・令和4年は過去平均値と比較して、50歳代の割合が最も多く、次いで40歳代の自殺死亡率が高くなっている。
- ・令和4年は、70歳代の割合が最も対前年比増加率が高く（164%）、次いで20歳未満（159%）となっている。
- ・20歳代が最も対前年比減少率（72.5%）が高く、自殺者数が少ない。

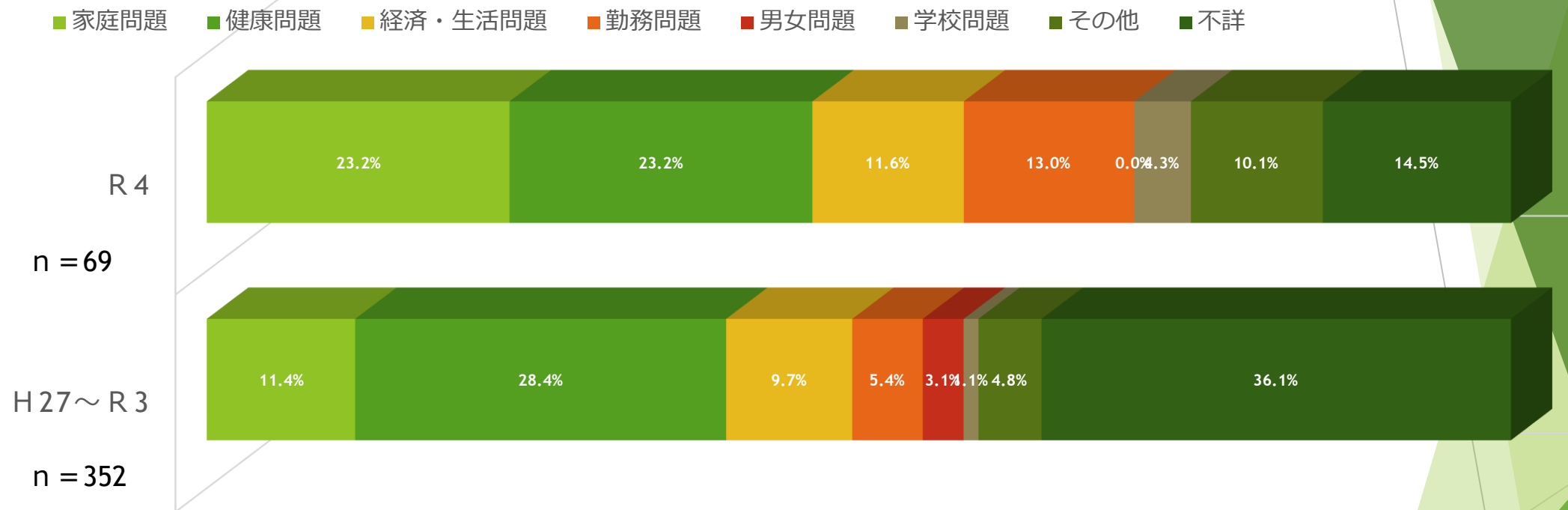
職業別自殺死亡率の比較



- ・令和4年は有職者が最も高い割合となっており、次いで年金・雇用保険等生活者、3番目にその他の無職者・主婦となっている。
- ・最も対前年比増加率が高いのは、主婦である（66%）。

令和4年中における府中市の自殺の状況③

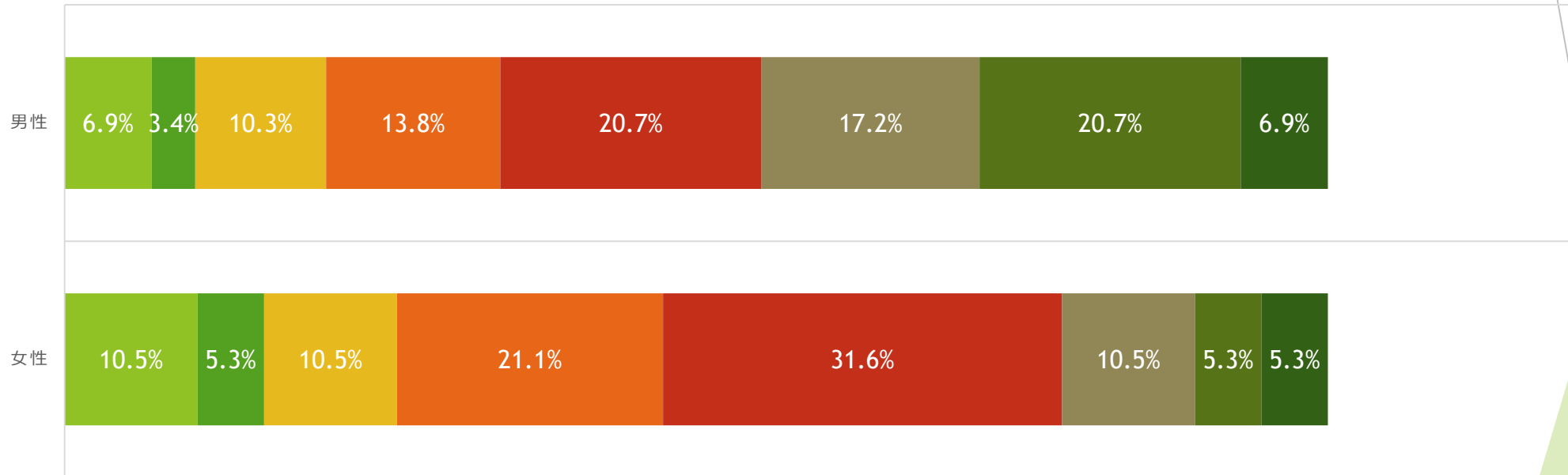
原因・動機別自殺者数の比較



- ・ 令和4年は家庭問題の割合が最も多く、次いで健康問題、不詳、勤務問題と続いている。
- ・ 令和4年の前年比増加率が最も高い項目は家庭問題（103%増）となっており、不詳項目を除いて各項目において増加している。

令和4年中における府中市の自殺の状況④

男女別年齢階級の割合

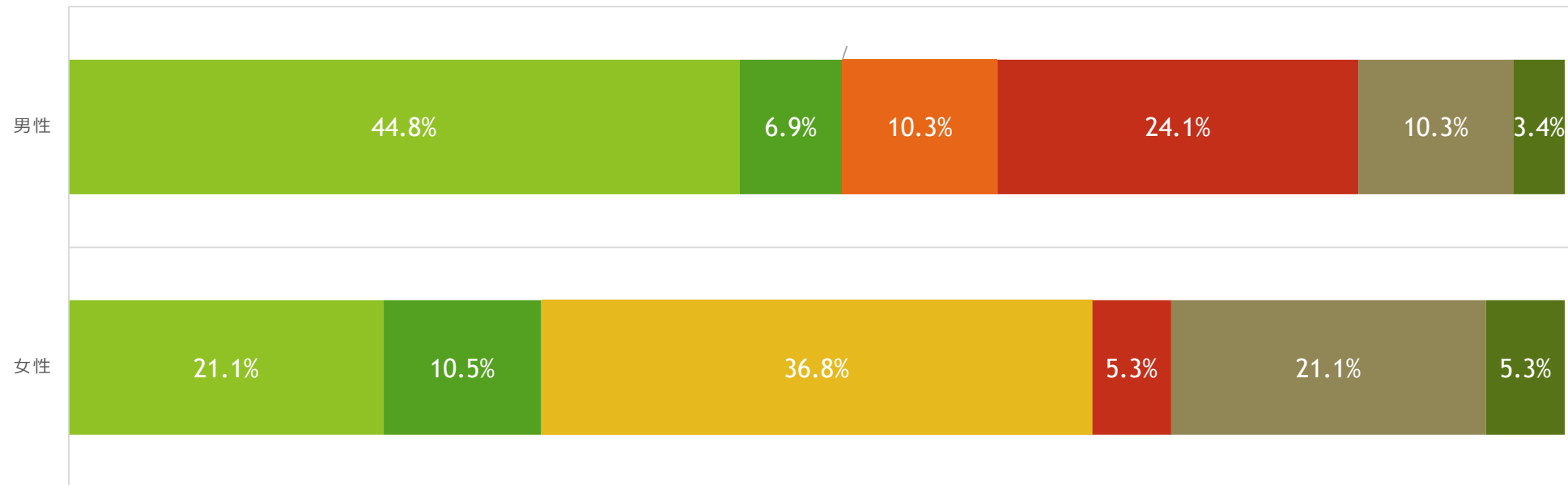


- ・ 男性では50歳代と70歳代が最も多くなっており、次いで60歳代となっている。
- ・ 女性では50歳代、次いで40歳代が最も多くなっている。

令和4年中における府中市の自殺の状況⑤

男女別職業種別割合

■有職者 ■学生・生徒 ■主婦 ■失業者 ■年金・雇用保険等生活者 ■その他無職者 ■職業不詳



- ・ 男性では有職者が最も多く、次いで年金・雇用保険等生活者となっている。
- ・ 女性では主婦が最も多く、次いで有職者及びその他無職者となっている。

府中市の自殺の状況をめぐる分析①

◆全体について

令和4年版自殺対策白書によると、全国の自殺者数は、令和元年は最少（2万169人）となり、令和2年は11年ぶりに総数が増加に転じ、令和3年には減少（2万1,007人）している。しかし、令和4年全国の自殺者数は前年に比べ874人増加している。一方、**府中市の自殺者数及び自殺死亡率は平成30年から増加傾向**にあり、国・都水準と比較しても高いことから、府中市の自殺対策は、コロナ禍での計画的な事業運営ができないことによる影響もあったものと推測されるが、現状を捉えた効果的な事業の実施が求められている。

また、令和4年版自殺対策白書による“新型コロナウイルス感染症の感染拡大下の自殺の動向（以下、自殺の動向）”のなかに、全国の自殺者数は、感染拡大前5年平均自殺者数の傾向と令和3年の自殺者数を比較し、「20歳代」が最も大きく増加し、次いで「10歳代」がそれに続いている。「30歳代」から「70歳代」までの年齢階級では減少しており、そのうち「60歳代」が最も減少している。この傾向は令和2年及び令和3年ともにみられている。府中市では、感染拡大前4年（平成28年から令和元年）平均自殺者数と令和3年自殺者数を比較したところ、「20歳代」が最も大きく増加し、次いで「50歳代」がそれに続いている。さらに、「10歳代」が最も大きく減少し、次いで「30歳代」となっている。

府中市の自殺の状況をめぐる分析②

◆性別・ライフステージなどについて

厚生労働省作成による“令和4年中における自殺の状況”では、自殺の原因・動機別自殺者数の年次推移において、令和4年中に全国で最も多い項目は健康問題であったが、府中市では令和4年中**家庭問題**が最も多くなっている。さらに、令和4年中の府中市における男女別年齢階級別および男女別職業種別割合を鑑みると、最も自殺者数が多い対象は、**男性では50歳代有職者、女性では50歳代主婦層**について自殺リスクが高い対象と捉える。

ゆえに、府中市の傾向として地域で生活する“夫婦”や“家庭”のなかで家庭問題を抱えきれずに、自殺に追い込まれているリスクがあると捉える。

最後に、若年層について、令和4年版自殺対策白書によると“学生・生徒等の自殺者数の推移”では、平成21年から令和元年にかけて、全国では自殺者総数は年々減少した一方、「小学生」から「高校生」まで平成28年以降増加傾向となっている。令和3年には一旦減少したものの、令和元年以前よりも多い状況と報告されている。令和4年中の府中市における自殺者数は、「20歳未満」は増加し、「20歳代」は減少している。府中市での平成28年から令和元年までの「10歳代」から「20歳代」まで自殺者数の平均（6.25人）と令和4年中の「10歳代」から「20歳代」までの合計数（6人）はほぼ同じとなっている。ただし、府中市での令和3年中の「10歳代」から「20歳代」までの合計自殺者数は12人と増加している年もある。若年層は自己アイデンティティを確立していく時期であり、自己評価がさがると自分の価値を見失う不安定な時期といえ、家庭や学校環境によるストレスやプレッシャーで精神的に追い詰められる原因は多岐にわたることから、よりきめ細やかな対応が必要と考えられる。

府中市の自殺の状況をめぐる分析③

◆府中市の地域特徴と今後について

府中市では、急速な少子高齢化がすすんでおり、若い世代の継続的な減少傾向がみられ、令和7年には団塊世代が75歳以上となり後期高齢者となる。

そのため、医療福祉関連需要の増大、高齢者世帯の孤立化、高齢者夫婦のこころのケアについての視点がさらに必要となってくる。また、家族の介護負担についても今後増えていくことが想定される。一方で、元気な高齢者や就労意欲の高い高齢者が多く存在することもあり、その方たちの地域での活躍についての仕組み作りも必要と考える。

東京都福祉保健局の調査（福祉・行政統計）のなかで、民生委員の相談件数について圏域6市を比較したところ、人口の多い市ほど、民生委員ひとりあたりの相談件数が減少傾向にある。さらに、府中市では若い世代の転入・転出人口が多いことから、若い世代の地域定着も難しい傾向にあり、若い世代の意見が反映されづらい面もみられる。地域のなかで家族が安心して過ごすことができ、地域のなかで見守り、気づき、相談できる体制は、世代を超えた交流や幅広い関係機関と協力した連携体制を検討していく必要がある。